

山弓連

平成17年
12月発行

真の競技力に思う 天野 裕

「礼に始まり礼に終わる」「射は進退周環必ず礼に中り・・・」武道、とりわけ弓道における「礼」の思想は、飛び道具として獲物を獲る役目、武器としての役割を終わる頃から、心身の鍛練を目指す用具となり精神性を求める中で培われてきたものと考えられる。

的に矢を的中させる行為自体は、射幸心にも似て人間の根源的な快感欲求を満たしてくれるもので、単純素朴な活動である。その的中の喜びと快感は味わえば「うほど、一層精度の高い的中を確実なものにしたくなる。その方法として我が先人達がとった工夫と修練は、西洋の合理的な方法とは異なり、道具の工夫よりも「技」と「精神性」、「心の働き」に重きを置いてきた。ここに現在の弓道とアーチェリーの違いが生じていると考えられる。

猟具や武器としての用途を捨てれば道具としての精度を高める必要は無いわけである。和弓が道具として単純素朴である理由もそこにあると考えられる。他に例が見られない「握り」の位置とその上下の長さのバランスなど、日本文化の持つ感性と美意識の中で追求されてきたのであろうか。心身弓が一体となって引き縛られた「会」の姿と弓なりの美しさには、その緊張感と精神性が現れて得も云われぬ味わいがある。

このように的中精度を求める道具としては進化を止めてしまったような和弓の世界でも、的に競い合う競技力の欲求は「中てたい」という欲望がある限り依然として無くならない。「的に」がある限りこの欲望を捨てる訳にはいかないし、向上しようというモチベーションも「的に」があるからこそである。

しかし、「競技力」と言う時、ややもすると「中りさえすればよい」という思いに捕らわれがちである。「まぐれ中り」でも「癖中り」でも的中数の上位者が勝者となる競技会では、尚更その観が強くなる。一般に行われている射会では、これも一つの楽しみ方ではあるが、まぐれや癖による的に依らず「正射正中」に価値を置き、中るべくして中った射を上位に位置づける競技会も考え出されている。関東選抜選手権大会や全日本選手権大会では複数の審査員による採点制が併用され、「真の射」を求めて評価が行われている。

教本に曰く「弓における真とは、弓の冴え・弦音・的中—これによって立証せられ、これらのものによ

て答えがでてくる」現代の弓射は実利の射ではなく、修練の過程を通して人格の陶冶を行い、人生を豊かにするものでなければならない・・・と。的にのみ心を奪われ、技術にのみ拘泥して小手先の技巧に走ることを戒めている。昔から「中てたいと思うなら中て気を捨てる」とも教えられているが、正にパラドックスで弓射の真理を突いている表現である。

このような観点で最近の活動を振り返るとき、インターハイでの韮崎高校男子団体の優勝と技能優秀校賞、五味真紀五段の全日本選手権大会出場権獲得、関東選抜選手権大会での中込実錬士の優勝、河西伊三男教士の3位入賞などは山弓連の誇りとして特筆しておきたい業績である。

山梨県弓道連盟第20回女子弓道大会

平成17年10月2日(日) 小瀬武道館弓道場
〈高校の部団体〉(24射・各自8射)

優勝 増徳商業高校Aチーム(24射14中)
星 歩(6) 和田直子(4) 伊藤梓(4)
2位 甲府商業Aチーム(24射13中) 競射
斎藤永里香(4) 長田未穂(5) 堀内志づ香(4)
3位 韮崎Aチーム(24射13中) 競射
山田早季(5) 木下実沙子(2) 斎藤香菜(6)

〈個人の部〉(8射)

1位・斎藤香菜(6) 競射(韮崎高) 2位・星 歩(6) (増徳商業) 3位・堀内美歩(5) (吉田高)

〈一般の部〉(8射)

1位・望月孝美(南アルプス)(7) 2位・大和田(南アルプス)(6) 3位・古屋直子(山梨)(5)

(女子部・望月孝美)

山梨県弓道連盟国体壮行射会地区対抗戦

平成17年10月9日(日) 小瀬武道館弓道場
参加15チーム 75名大会役員7名競技役員21名
〈団体の部〉(計40射)

優勝 南アルプス市Cチーム(23中)
2位 山梨市チーム(22中)
3位 笛吹市Bチーム(18中)

〈個人の部〉(計8射) 同中は競射による

優勝 細野晃史(8中) 2位 中込実(8中)
3位 山下弘行(7中) 4位 大野陽子(7中)
5位 稲葉香織(7中) 10位 青山和登(6中)
20位 中込康之(5中)

(競技部 長田部長)

第19回山日・YBS杯弓道選手権大会

平成17年11月23日(祝日) 午前9時
小瀬武道館弓道場 参加申込数143名

冷え込みの中、多数の参加を得て例年の如く、全

県下から弓友が参集して、正に老若男女、我こそはYBS杯の栄冠を得ようと意気込みも盛んに臨んだ大会が開催されました。午前中に4射、2中以上決勝進出の予選が行われ、午後に入って白熱した射詰め決勝戦が繰り広げられました。以下成績

女子の部 予選 決勝
 優勝：大村沙紀（葦崎）〇〇×〇 〇〇〇〇×〇〇
 準優勝：志村茂美（南巨摩南）〇××〇 〇〇〇〇×〇×
 3位：大野陽子（南ア）×〇〇× 〇〇〇〇××
 男子の部
 優勝：酒井紀夫（都留）××〇〇 〇〇〇×〇
 準優勝：渡辺 大（吉田）×〇〇〇 〇〇〇××（遠近）
 3位：荒井紀彦（吉田）〇×〇〇 〇〇〇××（遠近）
 4位：青島 勉（笛吹）〇〇〇〇 〇〇×（遠近）
 5位：山下弘行（山梨）〇×〇〇 〇〇×（遠近）
 称号受有の部
 優勝：佐野辰巳（南巨摩南）〇×〇〇 〇〇〇×〇
 準優勝：深沢武重（南ア）〇〇×〇 〇〇〇××
 3位：小林源治（南ア）×〇〇× 〇×

ねんりんぴっく選手壮行射会開催

今年は、10月になっても熱さが続くめずらしい年だが中旬に入り急に肌寒さを感じさせられる18日富士吉田市鐘山弓道場において、元青年弓士で張りきり、今はシルバー層として活躍している弓士28名が集い、標題の壮行射会が行われた。射会は、8射よる競射が行われ、成績は次の通りであった。

1位・中込明（7中）2位・標衣枝（6中）3位・内田徳美（5中）3位・竹村栄寿（5中）3位・小沢重平（5中）5中は競射を行わず同順位とした。
 飛び賞・伊藤昇 市川明 高野光子 斎藤義隆 内藤成富 広瀬千鶴子 吉成寛
 余興 千須和公代（雨）鈴木茂雄（萩）内田堅治郎（紅葉）斎藤義隆（藤）堀江一枝（菊）高野光子（桐）内田徳美（梅）伊藤昇（松）立川賢（桜）内藤成富（牡丹）小沢重平（菖蒲）平山孚（坊主）（内田堅治郎）

第12回石和町清流杯争奪弓道大会結果

2005年11月3日（木）晴れ
 参加者は80人 矢渡し射手：萩原英寿、
 第一：水上梨沙、第二：矢野宏幸

石和町は近的と遠的もできますので、楽しみにしている方がいるようです。遠的の方はお天気が悪いと楽しみが半減するのですが、今回は、すばらしい秋晴れで、気持ち良かったという声が多かったです。また、お昼の豚汁と賞品の石和町特産の柿を楽しみにしている方もいると聞いていますが、今年もすばらしいできばえで、喜んでいただけたと思っています。

石和町清流館弓道場

<近的団体の部> 8射
 優勝：南アルプス市（中込実・河西宏斉・河西伊三男）
 2位：石和町A（坂巻雅夫・石川克巳・矢野宏幸）
 3位：甲府市A（佐藤あゆみ・小宮山佳苗・小岱良子）
 <近的個人の部> 8射
 優勝：中込実（南ア）2位：中込康之（南ア）
 3位：石川克巳（石和）4位：河西宏斉（南ア）
 5位：小宮山佳苗（甲府）
 <遠的個人の部> 8射
 優勝：河西宏斉（南ア）2位：中込実（南ア）
 3位：細野晃史（甲府）4位：水上梨沙（石和）
 5位：深沢勇（南ア）
 <同中競射賞> 5中：坂崎満子 4中：渡辺誠
 3中：佐藤あゆみ 2中：古屋清記 1中：島田睦子
 （笛吹支部・石和・古屋）

審査部報告17年度（11月） 審査部長 佐野辰巳
 本年度170回171回目の審査が下記の通り実施されました、報告します。平成17年11月13日及び27日行われ2日間で271名が受審されましたが、194名の合格者がありました、結果は次の通りです。

	合格者			受審者数
	13日	27日	合計	
二級	0	4	4	
一級	61	40	101	106
初段	18	34	52	74
二段	15	5	20	46
三段	7	7	14	28
四段	1	2	3	17
合格者	102	92	194	
受審者数	142	129		271

※今年度の1年生受審者は全員が平成生まれの人でした。
 ※市町村の合併により住所の記入面で新旧の混入が多く見られました。※13日の査定で一般的に射形が良く27日は少し努力が見られませんでした。※3段を受審した人達には射品射格が良く合格率が上がりました。※4段受審者の中にはまだカーボン弓を使用しているがいます。※上位を受審する人達は、早めに竹弓と竹矢を使用して下さい。※一般的に入退場の動作はもう少し修練する必要があります。

今回は、平成18年2月19日です。

<編集後記>会報「山弓連」の編集を担当させて頂いて数年を経過しました、前会長安藤先生のような、心のこもった編集が出来なく申し訳なく思っております、記事の内容もマンネリ化状態です、出来るだけ豊富なニュースを掲載して、興味ある会報にしたいと思っています。是非会員の皆様のご協力をお願いします、トピックスニュースなどもお寄せ下さい。（新藤）